

プリオン病サーベイランスにおける調査票の2011年以降の回収状況

研究課題：プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究

研究分担者：所属機関 国立精神・神経医療研究センター病院神経内科
氏名 塚本 忠

研究協力者：所属機関 金沢大学医薬保健研究域医学系脳老化・神経病態学
氏名 山田 正仁
所属機関 東京大学大学院医学系研究科脳神経外科学
氏名 齊藤 延人
所属機関 東北大学大学院医学系研究科病態神経学
氏名 北本 哲之
所属機関 自治医科大学地域医療センター公衆衛生学
氏名 中村 好一
所属機関 国立保健医療科学院健康危機管理部
氏名 金谷 泰宏
所属機関 東京都健康長寿医療センター老年病理学研究チーム・神経病理学
氏名 村山 繁雄
所属機関 長崎大学医歯薬学総合研究科運動障害リハビリテーション分野
氏名 佐藤 克也
所属機関 徳島大学ヘルスバイオサイエンス研究部放射線科学
氏名 原田 雅史
所属機関 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科
氏名 太組 一朗
所属機関 医療法人北祐会北祐会神経内科病院神経内科
氏名 森若 文雄
所属機関 東北大学大学院医学系研究科神経内科学
氏名 青木 正志
所属機関 新潟大学脳研究所神経内科学
氏名 西澤 正豊
所属機関 横浜市立大学大学院医学研究科神経内科学・脳卒中医学
氏名 田中 章景
所属機関 岐阜大学大学院医学系研究科神経内科・老年学
氏名 犬塚 貴
所属機関 大阪大学大学院医学系研究科神経内科
氏名 望月 秀樹
所属機関 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科脳神経内科学
氏名 阿部 康二
所属機関 九州大学大学院医学研究院神経内科学
氏名 村井 弘之
所属機関 F M東京クリニック
氏名 田村 智英子
所属機関 大阪大学大学院工学研究科極限生命工学
氏名 古賀 雄一
所属機関 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科脳神経病態学
氏名 三條 伸夫

研究要旨（プリオン病サーベイランスにおける調査票の2011年以降の回収状況）

わが国のプリオン病は、平成11年4月1日から平成27年9月31日までのサーベイランス委員会のデータによると合計2597例の診断を行っている(1)。発症した症例の悉皆調査を目標としているため、主治医からの調査票の回収率を上げる必要がある。プリオン病サーベイランス事務局からの依頼に対して、主治医から調査票として情報を得ることができる回収率の現状を調べ、回収率向上のための対策を考察する。

A. 研究目的

サーベイランス事業では、プリオン病として調査された症例の悉皆的診断をおこなっているが、複数のルートからプリオン病サーベイランス事務局に発症の連絡が届いた際に主治医に送付する調査票の未返送（未回収）数が少なくないことが問題になっている。そこで、2011年度からの調査票の返送がない症例について、各ブロックの専門医から調査票の記載を改めて主治医に再度依頼している。2015年11月時点での各地区別の未回収調査票に関する統計を取り、それぞれの地区の面積・人口などから回収率との関連を調べた。

B. 研究方法

厚生省ルート、東北大ルート、長崎大ルートからの情報に基づき、サーベイランスの調査票を事務局から発送したものの返送がない（回収されていない）例について、2015年11月の時点での統計（事務局からの調査依頼数、返送件数（回収件数）、回収率を割り出した。

（倫理面への配慮）

C. 研究結果

2015年11月時点で、2011,2012,2013,2014年の未回収症例に対する依頼数は全国でそれぞれ126,111,118,245件であり、そのうち回収症例数は、それぞれ37,33,23,97件、したがって、回収率は29,30,19,40%であった。

2011-2014年の依頼件数（調査票未回収につ

き）は全国で600件、このうち返送されたのは190件、回収率は31.7%であった。まだ回収されてない調査票の数は都道府県別では、東京都が65件、大阪府が53件、兵庫県が46件、茨城県23件、京都府が22件であった。

2011年～2014年ブロック別
初回収率

ブロック	2011年	2012年	2013年	2014年
A	100%	100%	95%	100%
B	69%	43%	59%	17%
C	53%	70%	73%	63%
D	45%	61%	68%	51%
E	100%	100%	100%	86%
F	100%	90%	90%	87%
G	100%	98%	96%	66%
H	45%	57%	49%	18%
I	69%	93%	91%	43%
J	96%	92%	93%	58%

2011年～2014年ブロック別
再依頼後回収率

ブロック	2011	2012	2013	2014
A	100%	100%	100%	100%
B	69%	62%	63%	62%
C	71%	91%	86%	78%
D	75%	82%	81%	71%
E	100%	100%	100%	99%
F	100%	100%	100%	100%
G	100%	98%	96%	81%
H	54%	62%	53%	47%
I	69%	93%	91%	85%
J	96%	94%	97%	86%

D. 考察

調査票が未回収のままの症例は2011年からの数でも410件と多く、悉皆的調査の理想を大きく損なっている。特に関東・関西の両地域では未回収症例に対して再度の依頼をかけても調査票の回収率が低い。人口集積地で回収率は低い傾向にあり、今後のブロックあたりの専門医の数、調査方法などについて検討が必要と思わ

れる。

E. 結論

プリオン病サーベイランスの運営の根幹である調査票の回収状況について調べた。

回収率を上げるために、さらなる工夫が必要である。

[参考文献]

1) Nakamura Y, Ae R, Takumi I, Sanjo N, Kitamoto T, Yamada M, Mizusawa H: Descriptive Epidemiology of Prion Disease in Japan: 1999-2012 *J Epidemiol* 2015

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表 (2014/4/1~2015/3/31 発表)

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

発表者名・題名・学会名・発表地、発表日。

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし